



第165号
 発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 竹内正勝
 編集人 会報編集委員長
 丸山剛
 印刷所 須坂新聞社

人間の道を求めて

上高井教育会長 竹内正勝

過日行われた教育会総会、そして信教総集会にご協力いただき、誠にありがとうございました。信教総集会では、大変お忙しい中、合唱団の先生方は、何回も練習され、そのすばらしい信濃讃歌のフィナーレに感動いたしました。総集会の全てが終了した時、会員意見発表の金山先生、谷垣内先生の地味な努力の姿が再び思い出され、秋山の子どもたちの教育に真剣にとりくんでいる先生の姿勢に心打たれるものがありました。参会者の皆さんは同様に感激されたことと思います。

それにしても、本年度は、教育会館の建設という大事業があり、先生方に何かとご協力をいただきました。年内には完成し、無事竣工の式ができることと思います。須坂市、小布施町、高山村より多額のご援助をいただき、心より感謝申し上げます。先輩の先生方には、長い間ご協力をいただき、御礼を申し上げます。今後共よろしくお願い致します。

さて、戦後五十年経過の今、学校教育はもろもろのこと家庭教育に諸問題が山積しております。ご承知の通りであります。

自殺においこむいじめや、小中高にわたる不登校の実態は深刻であります。

戦後の日本が経済優先の社会であったためでしょうか。高度経済成長の反面、心のコミュニケーションの不足が論ぜられるようになりました。今や、頭の教育も大切であるが、もっと大切なことは、心の教育ということになるわけでありませう。

ある人が講演の中で

「人間の主体的で内面的な力を築くために、最も有力で強い期待を寄せられている分野は教育だ。しかし現状は、いじめがあり、児童、生徒によつてはもがき、苦しんでいる。思いやりが少しもない。いったいどうしたことか。」と述べられていた。

「今日、学校の帰りに、トラックに乗っていた人が、牛乳パックを車の窓から捨てていました。私は何度も『拾おう、拾おう』と思いましたが、でも拾わないで帰ってしまいました。

私は家に帰っても、捨てた方がよかったです。学校に忘れものをして、持ち帰った時、やっぱり落ちていたので拾いました。とても気がよかったです。」と。つづけて、担任の先生が次のように書いてくださいました。「捨てるしゅんかんを見てしまったわけですね。そのゴミが気になる、拾ったところ、拾ったというところがえらいね。目の前で捨てられると、捨てた人が拾うのがあたりまえだと思いがちだが、勇気を持って拾ったというのが、すばらしい。」この子の体験にわたしたちは学びたいものです。

|| 教育会だより ||

- 4・3 選挙公示(役員選挙)
- 4・4 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会
- 6・6 理事長選挙 第3回選挙管理委員会
- 8・8 会館建設現地説明会
- 10・10 第2回代議員会 第4回選挙管理委員会
- 12・12 副理事長 理事 信教常任委員 信教代議員選挙
- 13・13 第5回選挙管理委員会
- 14・14 教育会監査会
- 17・17 第1回常任委員会
- 18・18 研究委員会及び同好会世話係会
- 18・18 研究総委員会 於須坂小学校
- 18・18 講演会 中心講師 谷川彰英先生(筑波大学教授)
- 20・20 演題 『生活知』から『学校知』を問う
- 20・20 一世紀の学校のあり方
- 25・25 会館建設指名競争入札
- 25・25 第1回研究委員会世話係・委員長会
- 28・28 第3回代議員会 新任者会員歓迎会 於教育会館
- 1 新 任者会員10名
- 1 監事選挙
- 1 第2回常任委員会
- 1 会館建設起工式
- 1 同好会発足会 於須坂小学校
- 11 第1回同好会世話係会 会長会 於教育会館
- 18 教育会定期総会・講演会 於メセナホール
- 18 平成6年度会務報告並びに決算・平成7年度事業計画並びに予算の承認
- 6 講演会 講師 金井肇先生(大妻女子大学教授)
- 6 演題 「力強く生き学ぶ子どもをどう育てるか」
- 6 〇会員意見発表 朝間春子教諭(日滝小)
- 6 「解放子ども会の子どもたちに学ぶ」
- 6 第109回信濃教育会定期総集会 須坂市メセナホールで開催
- 7 第3回常任委員会
- 7 第4回代議員会
- 7 第4回常任委員会
- 7 第5回代議員会
- 7 上高井教育会報第165号発行

教材研究を深め、主眼を明確にした授業を

研究委員長 西澤 享良

「子どもにとって、わかり、魅力ある授業の在り方」をテーマに実践的な研究を続けて本年度は四年目になります。研究内容は「(1)基礎的・基本的内容を重視し、子どもがわかり、できた喜びのもてる授業の実践(2)子どもの力をみとり、活動・つきたい力・評価の視点からの教材分析」を継続し、各授業者の研究を基に各委員会と連携を深め、実践的な研究を通して、児童生徒が主体的に課題を発見し追究し、学ぶ喜びをつかみながら学習していく姿を求めて、授業の改善を図っていくことと進めてきました。

これまでに、授業者の研究課題に添いながら実証仮説を明確にし研究を進める中で、各教科等の基礎的・基本的な内容が子どもの学力として定着し、伸びていく過程の把握、教材研究や発問等の指導法の子どもの実態に即した具体化、子どもの意欲に沿った授業の導入・展開段階の工夫。体験を通して得られた子どもの実感を大事にした授業展開、教材の基礎的・基本的な内容の決めだしと学習内容の焦点化等の実践的な成果を得てきています。

そこで、本年度への課題として、これまでのテーマ・研究内容を継続し、一層基礎的・基本的な内容と「わかる、できる、魅力ある」授業の関係を究め、子どもが見通しを持って意欲的に追究し、根拠を持って集団の場で考えを練り上げ、活動や自己を見返していきけるような授業作り、そのための教師の具体的な指導・援助・評価の確かなさるる授業を目指して研究を更に進めていきたい。

具体的に決めだし、児童生徒によせて指導目標と評価の観点とを明確にして授業展開を創意工夫して仕組むことです。その中で特に大事にしたいことは、「主眼」を明確にすることです。さらに、授業のあり方の基礎・基本として、発問、指名、発表、発言、板書、資料の掲示等の仕方を十分に検討しておくことです。自ら課題をもって意欲的に学ぶ姿の中に、友と支え合い共に学ぶ姿の中にテーマに迫るものが見えてくるものと思えます。

第一回郡研究委員会生活科の授業をして「二十日大根と一緒に」

高橋 明子

教員五年目で初めて受け持った一年生。当初は、彼らを宇宙人のように感じたものです。でも、今回の研究授業を自分がすることを通して、一年生の良さにようやく気づけるようになってきました。

「二十日大根の種をまき、畑に二十日大根の種をまきました。「いいですか。生き物に話しかけると、早く大きくなってくれるんだよ。」と投げかけると、「早く大きくなってね。」と土の中の種に話しかけるS君。すると、周りの子



「早く出てきてね」「赤くなってね。甘い二十日大根になってね。」と野菜嫌いのY子も話しかける。

「早く出てきてね」「赤くなってね。甘い二十日大根になってね。」と野菜嫌いのY子も話しかける。二十日大根の芽が出る。すると、Y君は「早く大きくなれ。」と踊り出す。そして男子数人が輪になり、「豊作祈願」を始めたのです。一人の子の思いがクラス全体に広がり、勢いが出てきました。二十日大根が大きくなるにつれ、話しかける言葉が変わりました。「水をいっぱい飲んだかい。」「土の中は気持ちいいかい。」と…。そのうちに、「となりとくっついてきついでよ」「水を飲んで、うんと大きくなるよ。」と語りかける子。S君は、耳に手をあてて土に近づけ声を聞きます。「E子さんの大根は、甘くなるよ。」と答えてくれたのだそうです。

(常盤中)

平成7年度 県外視察者

学校名	氏名	視察目的	視察方面 実施予定
栗が丘小	柄沢 俊彦	環境教育に関する授業参観・研究会参加	関東方面 未定
"	竹前 和子	築地久子先生に学ぶ子供の問題解決学習	茨城県 未定
須坂小	宮坂 ゆかり	授業参観、研究会参加で教育技術の習得	関東方面 1学期中
"	依田 正良	児童が自ら学ぼうとする授業のあり方	関東方面 1学期中
小山小	町田 美穂	合唱指導の基礎と指導技術の研修	東京 夏休み中
森上小	荒井 公恵	個が育つ教育経営・自己表現を図る授業	富山県 5月下旬
"	山岸 信之	見方・考え方を深める社会科授業の研究	関東方面 2学期
日滝小	高橋 明子	公開授業の参観と研究会への参加	静岡県 未定
"	斉藤 義男	図工科授業の教材選定と教材化の研究	富山県 5月～6月
日野小	田中 敬士	小学校でグループ学習を取り入れた体育指導	北陸方面 11月
高甫小	西原 秀明	国語・美術教育の研修	東京方面 11月
仁礼小	百瀬 宏明	社会科の地域素材の教材化の実施例研究	関東方面 10月
"	堀田 幸雄	新しい学力観にたつ図工科指導のあり方	東京方面 10月
豊洲小	中嶋 清裕	道徳教育で自己を語る指導のあり方	東京方面 11月中旬
井上小	北條 泰瑞	小学校における基礎学力定着の指導	東京方面 11～12月
旭ヶ丘小	宮川 高思	パソコン授業の研究	神奈川県 夏休み
高山中	山下佐枝子	英語科の基礎・基本定着の指導の研究	関東方面 10月～11月
常盤中	川口真理子	生徒会・学級会等生徒の自主的な活動指導	関東方面 7月上旬
相森中	宮下 正己	日本美術教育学会京都大会参加・研修	京都府 8月8・9日
"	麻田 正明	日本環境教育学会へ参加・環境教育研修	千葉市 5月13・14日
墨坂中	北澤 晃	美術科授業で発想力を育てる指導の研究	関東方面 11月
"	猪瀬 勇	学校の同和教育授業参観と指導の研修	関西方面 2学期
"	水倉美和子	生徒の発想・発言を活かした数学指導	富山県 2学期
東 中	渡辺 敏泰	社会科で地域の先駆者に学ぶ歴史指導	関西方面 11月
"	嶋田 秀樹	特別活動の指導	東京方面 未定

生涯にわたって真摯に 学び合う時代です！

加藤 忠

六月十一日(日)理科同好会の探鳥会が臥龍公園で開かれた。前日来の雨も上り、曇天ではあるがまずまずの天気になった。開会の午前六時に遅れないようにと、早めに会場に到着したが、すでに講師の先生と会長先生が見えていた。予定された人数が、定刻には集合したので、さっそく頭上の桜の枝に飛来する鳥を観察した。早朝の餌どきとあって、シジュウカラ・コガラ・ヤマガラ・ムクドリ・ヒヨドリ・スズメ等々、たくさん的小鳥たちが、次々に姿を見せてくれた。活き活きとした鳥たちの生息を目の当たりにして心うかれた。

水面を泳ぐオソドリ、アヒル、アイガモ、ハクチョウ等の水鳥の生息も楽しみ、樹相をうまく住み分け、巧みに移動するシジュウカラやカワラヒワの群、餌どきを過ぎたヒヨドリ等を望遠鏡で追い求めた。

わずか二時間ほどの探鳥会だったが、可愛らしさで、活き活きと行動する鳥たちの生息は、私に楽しさと勇気を与えてくれた。また、講師先生の学識の深さと、いつの間にか、探鳥会に加わられたお子さん連れやご夫婦連れ

で、例年より多くなった会員の先生方の学ぼうとする前向きな姿に感動した。

かつて、私が社会教育行政に携わっていたころ、招かれて地域指導者研修会や老人大学で講師を度々つとめた。五時間半にも及ぶ講演会でも、高齢者の方々は、身動き一つせず真剣に聞いてくれた。また長野市のある公民館の利用者は、一週間に二八〇〇人余と聞いている。須坂市の公民館各館も夜遅くまで、地域の

書道同好会の活動について

神林 信雄

書道同好会の活動について何か書いてほしいと言われて私自身、どうしてよいか困ってしまっただけで、以前、会誌編集委員を長い間やった事もあり、その仕事の大変さもよく知っている。

どうして原稿を書くのに困ったかと言うと、まだ、同好会の役を引き受けて一、二月しかたっていないし、現在同好会をどのように運営していったらよいか悩んでいる最中であるからである。

書道そのものは好きであるが、会の運営については、初めてであり、以前から書道同好会に入っていたけれど、会費だけ出して、ほとんど出席しなかったからである。現任自責の念にとらわれている。一番ふさわしくない人が、同好会の運営をする事になり困っている。今までの罪ほろぼしと思ひ、何とかやっというという気持ちに、最近、やっと出でてきている。幸いな事に、同好会員の

本校の宝 ⑨

「語らいの広場」とイチヨウの木

井上小学校

「語らいの広場」

本校は、明治五年の学制発布以後二年、明治七年二月に福島学校として、同三月、二十五番道生学校として創立されました。以後、明治二十三年井上尋常小学校、三十一年井上尋常高等小学校となり、三十四年に現在地に移転し、改築されました。そして、平成五年三月には百二十周年を迎えました。

この間の環境整備において日常生活の中で子供たちから宝として親しまれ愛されているものを紹介します。

百二十周年を記念して造成された「語らいの広場」は、子供たちが自由に友だちとコミュニケーションをはかれる場とし、野外教室的雰囲気、うわはきのまま飛び出して遊んだり、学んだり、集会したり、さまざまな教育活動に利用されています。

また、休憩時間や放課後などは、児童と児童、教師と児童の語らいの場になり、子供たちの心を潤す親しめる広場になっています。



「木登りの木」
本校には、木登りの木というイチヨウの木があります。

大勢の子供たちが登りやすくなるため、下枝からたくさん枝を出しています。時には子供たちが、イチヨウの木になっている感じで、どの子も満足そうです。子供の頃の得がたい体験になるでしょう。既成の遊具があふれ、何ら工夫しなくても遊べる中で、自然の木で遊べる体験は子供の心に成功感を味わせたり、時には、高いところから校庭を見下ろせる楽しさも味わえるものになっています。

また、図工の教材にもなり「ぼくの木登り」など表現豊かに描いています。

本校の宝は子供にとって学校生活にゆとりと豊かさを与えてくれるものであると思います。

(市川治利)

に、以前、世話係と会長をやった森上小学校の山岸忠生教師先生、前に会長をした高甫小学校の新井進先生が、おられその両先生の支えによって何を何とか運営していきたくて考えている。

書道については、多くの人々が、自分も習ってみたい、自分も上達したいと思っている。それに美しい作品を見れば、自分も書いてみたいと願っている。その反面、文字を書く時、恥をかくのはいやだとか、堅苦しいとかと考える人も多い。

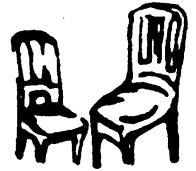
真白い紙に無心の境地で筆を運ぶ時すがすがしさ。また、書いたばかりのみずみずしさを、うまくいったという喜びも、作品を展示し、長い間見ていると、欠点が見えてきて、あわてて取ってしまった気が持ちはなる。

書道の勉強は奥が深いし、長い間、こつこつやる事が大切。唐時代の古典を臨書したり、自分なりの作品作りをしたりして、少しずつ進歩させる事が大切。自慢したり、得意になっていたりする時は、進歩が止まった時だ。

白い紙に筆で文字を書く時、何物にもとらわれずに無心に筆運びする境地は、また何とも言えない。この楽しさ、この境地をみんな、仲間とわかち合いたい。

(須坂小)

火ばら談義



「学級の子どもと関わって」

—やる気を育む言葉かけ—

丸山 充

特殊学級(精薄)の担任をしております。学級の四人の子ども達に、私は「口やかましく言い過ぎているんじゃないかな」と思う事があります。学級経営の上では、生活上自分の事は自分でできるようにと、基本的生活習慣にも重点を置いている事もあって、「トイレに行ったか」「シャツが出ているよ」「片づけしてないよ。」等の声かけが多くなりがちからです。子ども達は「わかってるよ」「と荒々しい声で言ったりもします。

子ども達は、言われなくても、これからやろうとしていたりする時もあるようで、時には黙って見ていると、やる事がわかっていて、行動する場面があります。私自身の心にゆとりがないのか、つい言い過ぎて反省させられます。

学級の子ども達は、いろいろな面で、身体上の障害もあり、動作が遅かったり、余計に思えるような事でもこだわ

「先生」から「教師」へ そして「教育者」へ

小林 和市

どうしてだろうか。この頃無性に先輩の書かれた物を読みたいと思うのは。

今、村田好道先生が書かれた『師魂』をお借りして読んでいる。昭和63年信教出版部の発刊であるが、教育会館の書棚にも見当たらず、出版部に問い合わせても在庫切れとの返事で、半ば諦めかけていた。

まずは、「三種の勉強」の(1)朝は修行僧となり。(2)昼は

教師になつて

折井 春香

今、教師として初めての夏休みを迎えようとしている。昨年の今頃、夢に見ていたことだ。六月に三週間の教育実習を経験した。短い実習期間ではあったが、自分の一言が、生徒の人生を左右してしまうことがあるという恐ろしさを体験することができた。また、自分自身はいつの間にか忘れてしまっていた、何でも受け入れようとする純粋な心を持つていた生徒の皆さんと接することもできた。最終日に、A君から「自分が卒業する前に正式な先生になって戻ってきてよ。本当に出会えてうれしかった。」という言葉を言

教師として直接教授に専念。放課後は明日の生の教案(胸案)を必ず仕上げて手ぶらで帰宅すること。「ひね」の教案で授業をせぬこと。(3)夜は学生にかえり、万巻の書物を系統的に学問研究せよ。……に驚いた。

次に、新卒の村田先生と校長先生である藤森省吾先生とのやり取りや、村田先生の授業を校長先生と教頭先生(上高井の稲田猶治先生)とが交替で見にいられることを約束される場面など、面白かった。そして、研究に至っては、今現場でさかんに「自己教育力

だ。意欲だ。個性だ。」と叫ばれていることについて明確に述べられてあり驚くばかりである。一昔前の先輩方と比べ研究の遅れとともに、教育理念や哲学の浅さを痛感させられる。

かつて、お世話になった校長先生が言われたことを思い出す。『燃えよ二十代』専門分野で一流たれ三十代//信念に生きよ四十代//円熟した人柄のにじむ五十代//』

折角の縁で出会えた仲間とともに、切磋琢磨し合って、「教師の育つ学校」を創り上げていきたい。(仁礼小)

編集後記

フレッシュな思いでスタートした一学期が、終了いたしました。

お忙しい中、原稿をお寄せくださった先生方、本当にありがとうございます。

本年度は、次のメンバーで会誌・会報をお届け致します。

- 委員長 丸山 剛 (小山小)
- 副委員長 山岸 徹 (日滝小)
- 委員 西原秀明 (高甫小)
- 川上三雄 (高山小)
- 岡沢 茂 (須坂小)
- 小山洋子 (墨坂中)
- 畑中恵美子 (東中)
- 竹内 正 (常盤中)
- 久保田啓一 (小布施中)
- 内藤 格 (高山中)

(西原・小山)